

イチゴの高設栽培における気化冷却による 開花促進・収量安定化技術

【背景・目的・成果】

イチゴは秋に日長が短くなり、気温が低下することにより花芽が分化します。しかし、近年の気候温暖化により、花芽分化の遅れやばらつきが問題となっています。

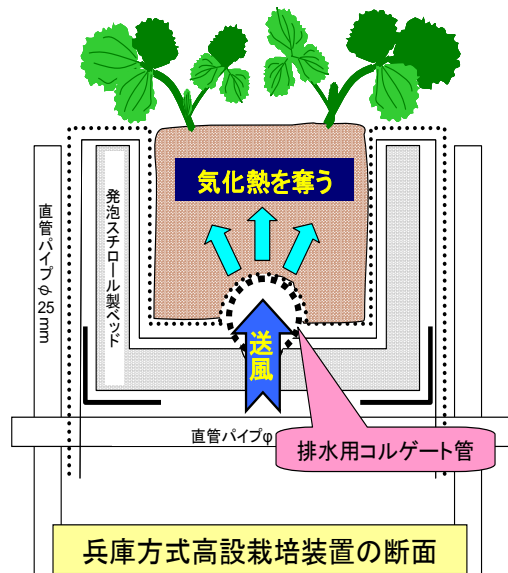
そこで、兵庫方式高設栽培装置を改良し、装置内に送風可能にしました。これにより、培地から気化熱を奪って地温を低下させ、定植直後の花芽分化を促進し収量の安定化が可能となりました。

■兵庫方式高設栽培装置の改良

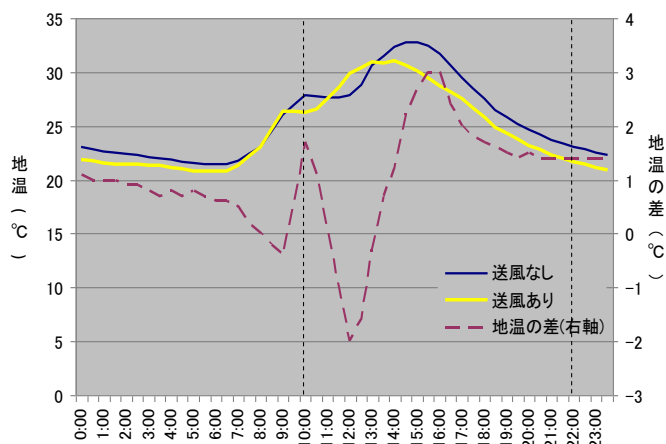
→ 装置内部のコルゲート管に送風できるようにする。



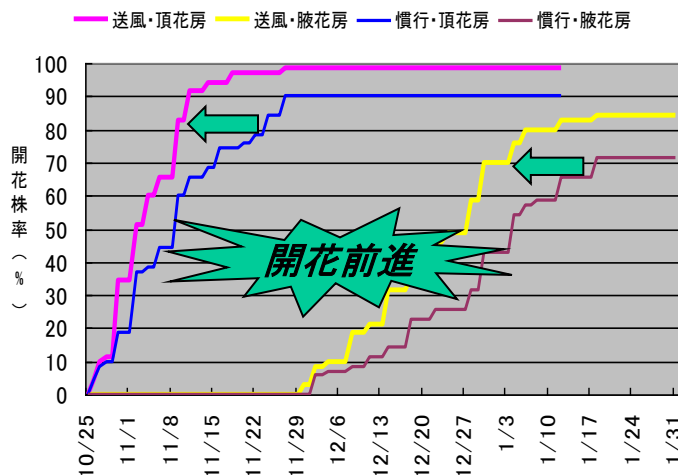
ダクトで装置内に送風
→加温機の送風機能を利用可能



■効果



送風により地温が最大3°C低下



開花が早まる→結果的に早期収量も増加

【技術の活用】

ハウス内加温機の送風機能利用により、コストは非常に安価となる。品種によって効果に大きな差があり、また冷却しすぎると花芽分化は早まるが生育が遅れるため、検鏡により花芽分化が確認できれば送風を終了する。